体験談⑦

# 太平洋戦争の戦時下―中学三年間―

白川 孝道(92 才)

当時は国民学校と呼ばれていた小学校。毎朝登校時に学校の門を入ると先ず奉安殿に最敬礼、次に二宮金次郎の銅像に礼をして、教室に入る。国民学校６年生の 12 月、英米に対し宣戦布告(1941 年 12 月８日)太平洋戦争が勃発した。

1942 年(昭和１７年)奈良県立郡山中学校入学、１学級５０人４組編成であった。入学後、最初の行事は桃山御陵参拝。戦争に対する教育の基本を学ぶ。戦争は聖戦であり、日本は神国。戦争に負けたことはない。大東亜共栄圏の盟主。各国の指導者たる自覚を持て！

1943（昭和 18）年中学２年英語は敵国語であり、授業短縮する。軍事教練が始まる。配属将校が２名常駐。１名は将校、１名は兵卒上がりの万年少尉でタタキ上げの軍人。通常の授業が終わりに近づくと、自分の席でゲートル着用。先生も黙認。授業が終わるや否や一斉に運動場に整列、教練（２時間）を週３日行う。訓練中笑えば「口を開けろ」と命令され、砂を食わされる。月１回は野外行軍で模擬銃を肩に１日歩く。配属将校は自転車で同行、指揮。年２回夜間行軍訓練。早朝帰宅、朝食後再び学校へ。

冬には剣道の寒稽古。大寒入りから１週間　朝７時より約２時間。生物の時間には、学校の奥の広場で、馬鈴薯や甘藷の栽培をする。鶏の飼育、鶏料理の方法の実演。炭焼き竈で、炭を作る。収穫された作物、鶏肉、炭などは、教員が分けて持ち帰る。

路上で女学生と会話することは厳禁。特高警察が目を光らす。

中学１～2 年生の夏秋は、小泉・斑鳩（いかるが）・平群（へぐり）各農家へ数日間出かけ、稲刈り、麦刈り奉仕。長谷寺町の裏山へ植林奉仕。作業は、きつかったが、林業家の家で出してくれる間食のサツマイモがおいしく、食事もご飯、腹一杯食べられ大満足であった。当時の街の何処でも見かけた標語は、“天皇陛下の御為にはいつでも笑って死ぬるんだ！”“撃ちてしやまん！”“鬼畜米英！”

中学３年生。1944（昭和４４）年７月 15 日学徒勤労動員令発令、国鉄関西線Ｋ駅を出発名古屋へ。動員された県立中学生、私立中学生も同乗しており、それぞれの軍需工場へ赴く。三菱電機名古屋製作所に勤務となり授業は停止され、教員は、監督者として同行した。製作所は、瀬戸電　大曾根駅に隣接していた。

宿泊施設は瀬戸電小幡駅の近く守山にあり、新築の寮、また陸軍練兵場の隣で

あった。寮では、１部屋 12 畳７人入居。休日は月２回。月１回が父兄面会日。起床６時。６時半に出発。寮から大曾根駅近くの工場まで約３ｋｍ、朝は徒歩約 40 分、帰りは電車。工場到着後、担任の先生から指示、注意事項などあり、工場作業現場に向かう。月１回の合同朝礼で工場従業員,同じく動員された名古屋の高等女学校生徒も共に。工場内に数棟の棟があり、その大きさに驚く。

各自職場に出勤し、始業 AM8:00 終業 PM4:00。照準器の試作から始め、飛行機の部品など製造。各職場の指導員から作業の説明、指導を受ける。トイレなど職場を離れる時は、必ず報告。担任の先生が一日数回、状況チェックに巡回される。作業能力が向上するに従い、工場で使用する旋盤、フライス盤、ボール盤など工作機械の性能を理解、高性能製造機械は、すべてアメリカ製かドイツ製に気付く。日本製ではオシャカになる。“こんなことで戦争に勝てるのかしら”と疑問をもつ。

寮の食事は、豆かす、大豆、コウリャン入りのいずれかのご飯、大根入りの味噌汁、蔬菜一品。空腹でも辛抱。面会日の父兄差し入れでどうにかつなぐ。その蔬菜も暫くするとイナゴのフライばかりが、毎日出され、辛抱堪らず、そのイナゴを机に並べて「イナゴはイヤだ」と字を書く。

3 か月後から夜勤始まる。１週間交代、始業 PM7:00 終業 AM6:00。代わりに往復とも電車通勤 OK となる。

7 月サイパン陥落後米軍爆撃機による本格的空襲始まる。11 月 24 日、B29 による東京大空襲、東京多摩中島製作所に B29、111 機来襲のニュースあり。

守山寮の近くには、陸軍兵舎、練兵場、高射砲陣地があり、急いで寮の横の空き地に防空壕を作る。空襲は、日ごとに激しくなり、就寝中にサイレンで起こされ、一晩に数回防空壕に避難。数日経つと慣れてきて眠くて堪らず、発令されても部屋の押入れで寝込み、避難しない者が続出。

1944 年 12 月 13 日、B29、80 機による名古屋大空襲、名古屋市北部、三菱発動機爆撃される。当日は、夜勤明けで、寮で就寝していた。翌日の朝、出勤してみると、それまで毎日聞こえていた隣接する三菱発動機の試験稼働音が、ピタリと止んでいた。工場稼働停止の模様。その後、工場に派遣されていた奈良の中学生徒８人が犠牲と聞く。

1945 年 3 月 12 日、名古屋市街地大空襲。焼夷弾による空襲止まらず休日の外出は、担任の先生の許可を得て許されていた。市内の歯医者に通院していたが、空襲 3 日後に行って駅を降りると、焼夷弾による大空襲で一面焼け野原になっており、市内灰燼、一軒の家も見当たらず、戦争の悲惨さを、目の当たりに体験。

1945 年 3 月 24 日、B29、130 機による守山陸軍兵舎の空襲あり。幸いに寮の直撃は、なかったが、防空壕の中での地響き。頭上から土砂が崩れ落ち、爆裂音は、鼓膜が破れんばかりであった。正に紙一重で助かった。ただ同じ工場勤務で

最近急遽徴用され、着任した一団の年配陸軍兵たちは、防空壕作りが間に合わず、地上に伏して避難。数名、爆弾の破片を受けて死亡。

三菱電機も大損害。毎日、後片付けに終始。新工場として４月中津川工場へ移転。

事態の深刻化に伴い父兄会が、学校に強く帰郷を要請。学校工場案が決定される。中津川工場では、作業準備まで行なったが、５月に 10 か月ぶりに帰郷。自宅から通学。学校工場設営のため、毎日　国鉄Ｋ駅近くのＭ電器工場から学校工場用の機材の運搬を始める。近くに柳本飛行場があり、度々敵機来襲。作業を中止して避難することしばしば。幸いに爆弾投下は、なかった。

一億総力戦　一億玉砕。市民の生活は、隣組の歌「トントンとんからりっと隣組・・・・助けられたり助けたり」にある通り隣組が基盤であった。隣組単位で焼夷弾の爆撃に備えてバケツリレーの訓練、また、米軍の本土上陸に備えて「竹槍戦術」の訓練が始まる。これでは戦争に勝てるわけはないと、口には出さないが、皆思っていた。

大本営発表では、日本は、いつも勝利していたのだが、現実はアッツ島、ガダルカナル島、サイパン陥落と玉砕の連続で、本土への空襲本格化していた。「京都、奈良の古代遺産は、どうなるのか」と心配する。関東・紀伊半島・沖縄九州の何れかへの上陸が、予想された。３月遂に米軍沖縄に上陸。神風特攻隊の活躍が報道された。６月沖縄戦敗北。本土決戦が現実のものとなった。湯川秀樹さんの新兵器“神風”を待つのみ！

原子爆弾、８月６日広島、８月９日長崎に投下。「高性能爆弾で空中爆発する。強い光を放つので、白いシーツを着用して避難せよ！」と報道。

1945(昭和 20)年８月１５日、ポツダム宣言受諾。太平洋戦争敗戦！終結。

学校再開。先ずは敵国語として２年間しか習わなかった英語の勉強を、一年生教科書から始める。